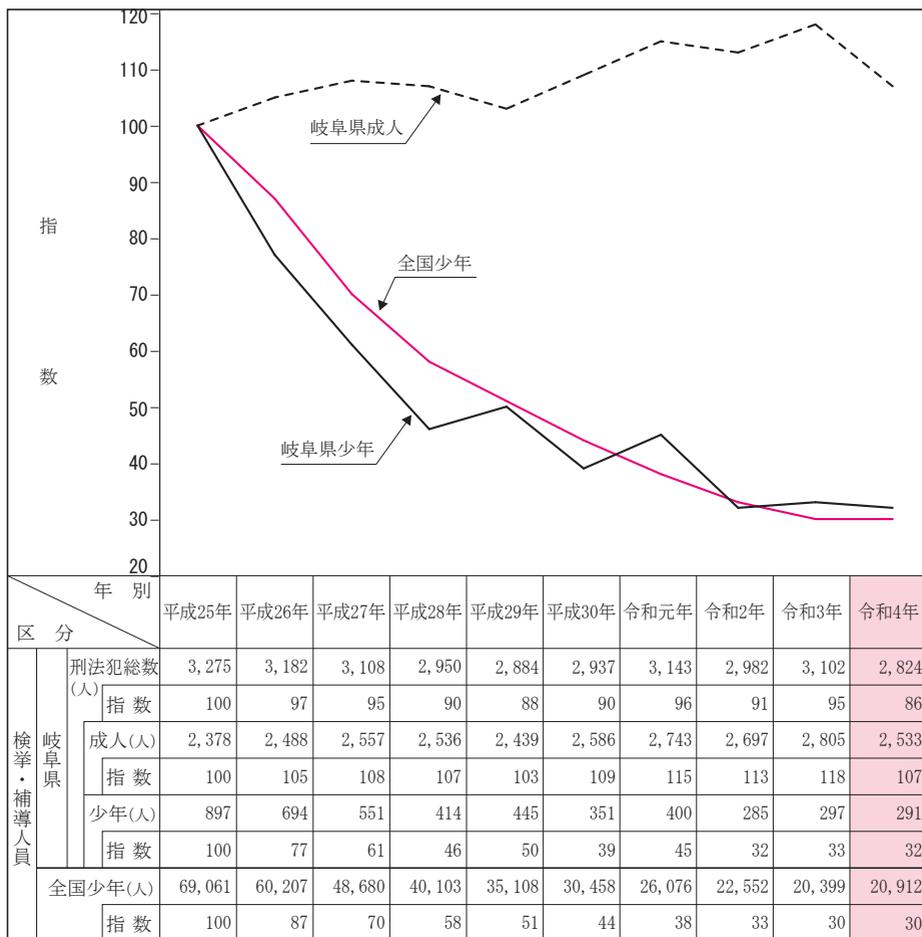


第2 刑法犯少年

1 年別推移

- 刑法犯少年は291人で、前年に比べ6人（2.0%）減少した。
- 全国で検挙・補導した刑法犯少年は20,912人で、前年と比べ513人（2.5%）増加した。

刑法犯少年の年別推移

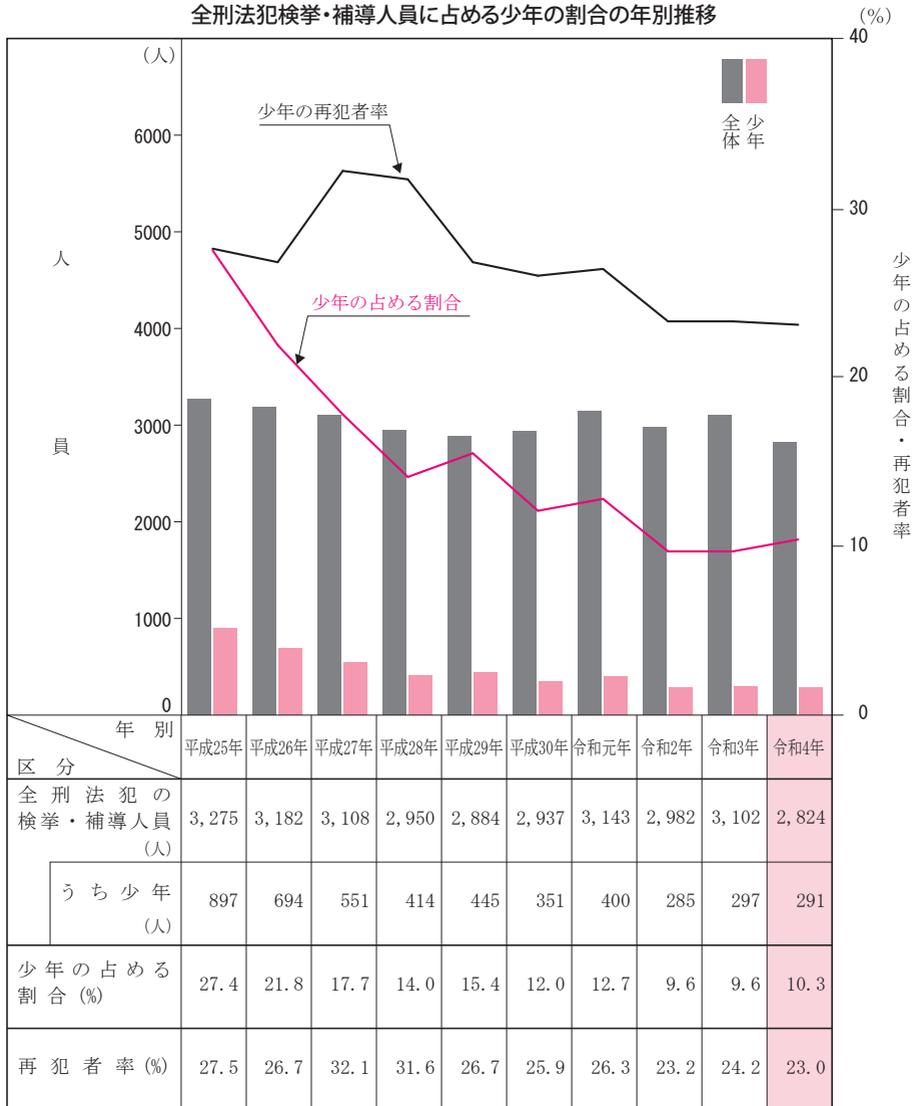


(注) 指数欄は平成25年を100とした指数を示す。

2 全刑法犯検挙・補導人員に占める少年の割合

- 成人を含めた全刑法犯検挙・補導人員2,824人中に占める少年の割合は10.3%で、前年に比べ0.7ポイント増加した。
- 刑法犯少年(触法少年を含む)の再犯者率は23.0%で、前年より1.2ポイント減少した。

全刑法犯検挙・補導人員に占める少年の割合の年別推移



3 罪種別

- 刑法犯少年の罪種別構成比を見ると、窃盗が46.7%と最も多く、次いで暴行16.5%、傷害8.2%、器物損壊5.8%の順であった
- 初発型非行（万引き、自転車盗、オートバイ盗、占有離脱物横領）は116人で、刑法犯少年全体の39.9%を占めており、前年に比べ1.2ポイント増加した。
- ニセ電話詐欺（特殊詐欺）による検挙は2人で、前年に比べ3人減少した。

刑法犯少年の罪種別状況

(人)

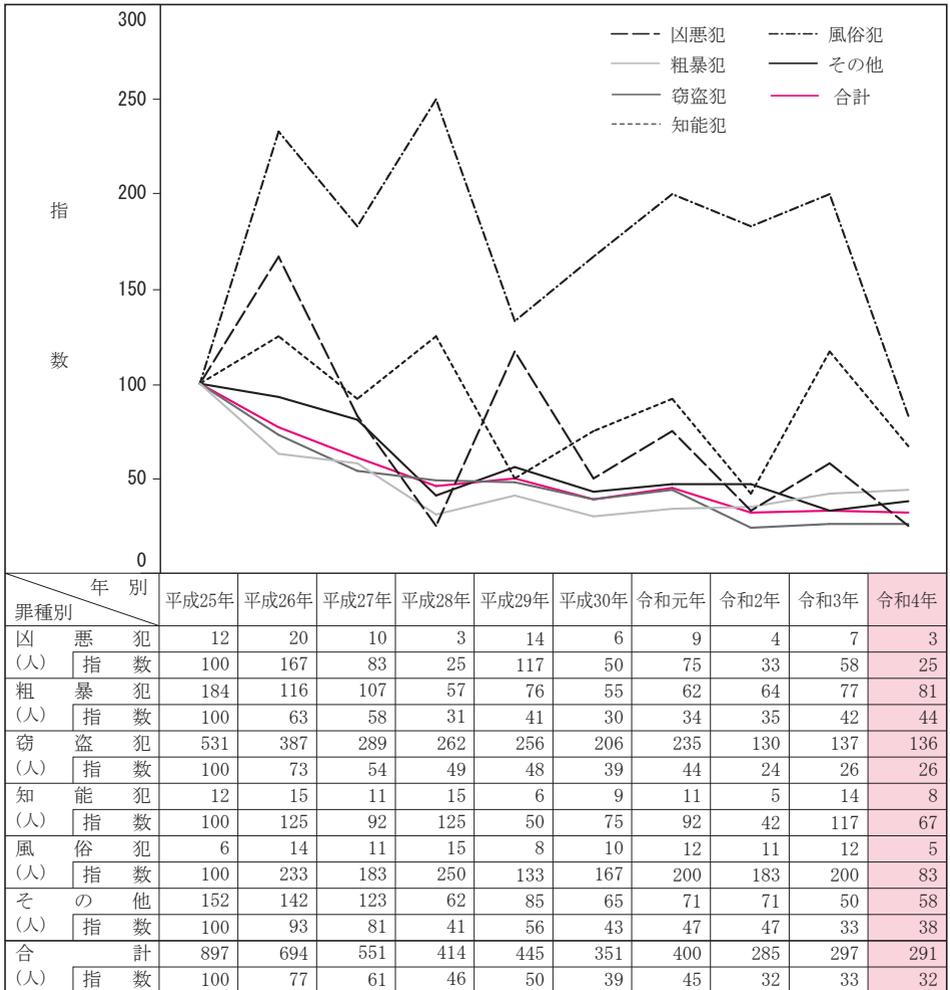
罪種別		令和 4 年		令和 3 年		前年対比（増減）	
		人 員	構成比 (%)	人 員	構成比 (%)	人 員	比率 (%)
凶 悪 犯	殺 人	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	強 盗	0	0.0	4	1.4	▲ 4	▲100.0
	放 火	1	0.3	1	0.3	0	0.0
	強 制 性 交 等	2	0.7	2	0.7	0	0.0
	小 計	3	1.0	7	2.4	▲ 4	▲ 57.1
粗 暴 犯	凶 器 準 備 集 合	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	暴 行	48	16.5	42	14.1	6	14.3
	傷 害	24	8.2	24	8.1	0	0.0
	恐 喝	4	1.4	5	1.7	▲ 1	▲ 20.0
	脅 迫	5	1.7	6	2.0	▲ 1	▲ 16.7
小 計	81	27.8	77	25.9	4	5.2	
窃 盗 犯		136	46.7	137	46.1	▲ 1	▲ 0.7
知 能 犯	詐 欺	7	2.4	12	4.0	▲ 5	▲ 41.7
	そ の 他	1	0.3	2	0.7	▲ 1	▲ 50.0
	小 計	8	2.7	14	4.7	▲ 6	▲ 42.9
風 俗 犯	強 制 わ い せ つ	3	1.0	7	2.4	▲ 4	▲ 57.1
	そ の 他	2	0.7	5	1.7	▲ 3	▲ 60.0
	小 計	5	1.7	12	4.1	▲ 7	▲ 58.3
そ の 他	占 有 離 脱 物 横 領	13	4.5	12	4.0	1	8.3
	盗 品 譲 受 け 等	0	0.0	1	0.3	▲ 1	▲100.0
	器 物 損 壊	17	5.8	21	7.1	▲ 4	▲ 19.0
	そ の 他	28	9.6	16	5.4	12	75.0
	小 計	58	19.9	50	16.8	8	16.0
合 計		291	100.0	297	100.0	▲ 6	▲ 2.0

(注) ▲印は、減少を示す。

○ 罪種別では、成人を含めた全凶悪犯（殺人、強盗、放火、強制性交等）35人中、少年は3人でその割合は8.6%となった。

また、全粗暴犯（暴行、傷害、脅迫、恐喝）1,063人中、少年は81人でその割合は7.6%、窃盗犯1,195人中、少年は136人でその割合は11.4%で、窃盗犯に占める少年の割合は、全刑法犯検挙・補導人員に占める少年の割合（10.3%）を上回っている。

刑法犯少年の罪種別の年別推移



(注) 指数欄は、平成25年を100とした指数を示す。

4 原因・動機別

- 刑法犯少年の非行の原因・動機では、「所有・消費目的」が最も多く、次いで、「憤怒」、「遊び・好奇心・スリル」、「遊興費充当」の順であった。
- 年齢別では、14歳未満が94人で最多となった。

刑法犯少年の原因・動機別状況

(人)

罪種別 年齢別 学職別	原因 動機別	合 計	生 活 困 窮	遊 興 費 充 当	債 務 返 済	一 時 的 盗 用	所 有 ・ 消 費 目 的	そ の 他 の 利 欲	怨 恨	憤 怒	痴 情	性 的 欲 求	服 従 ・ 迎 合	遊 び ・ 好 奇 心 ・ ス リ ル	自 己 顕 示	そ の 他
	合計	291	5	22	1	4	110	8	2	79	0	15	0	33	3	9
	構成比 (%)	100	1.7	7.6	0.3	1.4	37.8	2.7	0.7	27.1	0.0	5.2	0.0	11.3	1.0	3.1
罪 種 別	凶 悪 犯	3						1				2				
	粗 暴 犯	81						1	1	73		2				4
	窃 盗 犯	136	4	12		3	103	4				3		5	1	1
	知 能 犯	8		7												1
	風 俗 犯	5										5				
	そ の 他	58	1	3	1	1	7	2	1	6		3		28	2	3
年 齢 別	1 4 歳 未 満	94					44	6		24		4		12	1	3
	1 4 歳	28		1		1	11	1		9		4		1		
	1 5 歳	33				1	12		1	13		2		2	1	1
	1 6 歳	36		4			16		1	8		1		4		2
	1 7 歳	34	2	4			11	1		11		1		3		1
	1 8 歳	28		6		1	9			8		1		2	1	
	1 9 歳	38	3	7	1	1	7			6		2		9		2
学 職 別	未 就 学	0														
	小 学 生	53					27	3		11		1		7	1	3
	中 学 生	76		1		1	28	4		27		8		6	1	
	高 校 生	71		7			26	1	2	21		4		8		2
	その他の学生	18		1		2	7			1		1		5	1	
	有 職 少 年	56	4	11		1	16			14		1		7		2
無 職 少 年	17	1	2	1		6			5						2	

5 窃盗犯少年の学職別・手口別

- 窃盗犯少年は136人で、前年に比べ1人（0.7%）減少した。
- 手口別では、万引きが85人で最も多く、窃盗犯全体の62.5%を占め、次いで自転車盗の16人（11.8%）、置引きの5人（3.7%）の順であった。
- 街頭犯罪（自動車盗、オートバイ盗、自転車盗、車上ねらい、部品ねらい、自販機ねらい、ひったくり）は22人で、自転車盗が16人（72.7%）と最も多く、オートバイ盗、車上ねらい、部品ねらいは同数の2人（9.1%）であった。
- 学職別では、小学生が32人（23.5%）と最も多く、次いで中学生が31人（22.8%）、高校生が30人（22.1%）、有職少年が27人（19.9%）、無職少年が9人（6.6%）の順であった。

窃盗犯少年の学職別・手口別状況

(人)

手口別	学職別 未就学	学 生 ・ 生 徒				有職少年	無職少年	合 計	前年対比(増減)	
		小学生	中学生	高校生	その他				人 員	比率(%)
侵 入 盗	空 き 巢		1	1			2	1	100.0	
	学 校 荒 し						0	0	0.0	
	忍 び 込 み						0	▲ 2	▲ 100.0	
	出 店 荒 し						0	0	0.0	
	工 場 荒 し						0	0	0.0	
	そ の 他		2	1		2	1	6	5	500.0
	小 計	0	0	3	2	0	2	1	8	4
非 侵 入 盗	万 引 き	28	17	18	4	13	5	85	4	4.9
	自 転 車 盗		7	3	2	3	1	16	1	6.7
	オ ー ト バ イ 盗			2				2	▲ 5	▲ 71.4
	自 動 車 盗							0	▲ 2	▲ 100.0
	ひ っ た く り							0	▲ 1	▲ 100.0
	自 販 機 ね ら い							0	0	0.0
	車 上 ね ら い			2				2	2	—
	部 品 ね ら い			1	1			2	2	—
	そ の 他	4	4	2		9	2	21	▲ 6	▲ 22.2
	小 計	0	32	28	28	7	25	8	128	▲ 5
合 計	0	32	31	30	7	27	9	136	▲ 1	▲ 0.7
	構 成 比 (%)	0.0	23.5	22.8	22.1	5.1	19.9	6.6	100.0	
前年対比	人 員	0	▲ 2	▲ 1	▲ 11	4	5	4	▲ 1	
(増減)	比 率 (%)	0.0	▲ 5.9	▲ 3.1	▲ 26.8	133.3	22.7	80.0	▲ 0.7	

(注) ▲印は、減少を示す。

6 学職別

○ 刑法犯少年を学職別で見ると、中学生（76人）、高校生（71人）、有職少年（56人）、小学生、その他学生、無職少年の順であった。

中学生・高校生で全体の50.5%を占めており、前年に比べ7.1ポイント減少したが、依然として非行の中心であるといえる。

刑法犯少年の学職別・罪種別状況

(人)

罪種別		学職別 合計	未就学	学 生 ・ 生 徒				有職少年	無職少年
				小学生	中学生	高校生	その他		
凶 悪 犯	殺 人	0							
	強 盗	0							
	放 火	1		1					
	強 制 性 交 等	2				1		1	
	小 計	3	0	1	0	1	0	1	0
粗 暴 犯	凶 器 準 備 集 合	0							
	暴 行	48		9	13	18		7	1
	傷 害	24		3	11	3		4	3
	恐 喝	4				2		1	1
	脅 迫	5			1	1	1	1	1
小 計	81	0	12	25	24	1	13	6	
窃 盗 犯	136		32	31	30	7	27	9	
知 能 犯	詐 欺	7				3	1	2	1
	そ の 他	1						1	
	小 計	8	0	0	0	3	1	3	1
風 俗 犯	強 制 わ い せ つ	3			3				
	そ の 他	2			1		1		
	小 計	5	0	0	4	0	1	0	0
そ の 他	占 有 離 脱 物 横 領	13			4	4	2	3	
	盗 品 譲 受 け 等	0							
	器 物 損 壊	17		6	5	3	1	2	
	そ の 他	28		2	7	6	5	7	1
	小 計	58	0	8	16	13	8	12	1
合 計	291	0	53	76	71	18	56	17	
構 成 比 (%)	100	0.0	18.2	26.1	24.4	6.2	19.2	5.8	
前 年 対 比 (増減)	人 員	▲ 6	0	3	0	▲ 24	10	2	3
	比 率 (%)	▲ 2.0	0.0	6.0	0.0	▲ 25.3	125.0	3.7	21.4

(注) ▲印は、減少を示す。

- 刑法犯少年の過去10年間における学職別推移は、以下のとおり。
- それ以前の平成年間では、平成20年に同数になるまで毎年高校生が中学生を上回っていたが、平成21年以降、中学生が高校生を上回る年が多い。

刑法犯少年の学職別・年別推移

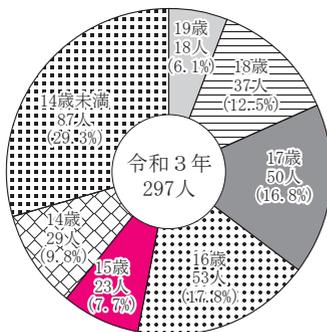
(人)

学職別		年 別	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
未	就 学		1									
学 生 ・ 生 徒	小 学 生		52	46	46	46	58	43	53	33	50	53
	中 学 生		335	211	215	129	118	115	122	51	76	76
	高 校 生		289	269	129	94	118	91	103	90	95	71
	そ の 他		21	18	13	24	16	14	19	24	8	18
有 職	少 年		112	96	95	82	93	43	79	67	54	56
無 職	少 年		87	54	53	39	42	45	24	20	14	17
合 計			897	694	551	414	445	351	400	285	297	291

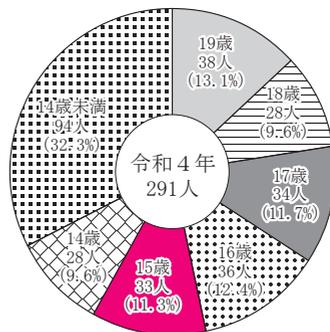
7 年齢別

- 刑法犯少年を年齢別で見ると、14歳未満が94人と最も多く、次いで19歳、16歳の順となっている。

刑法犯少年の年齢別状況



占有率	14歳と15歳	17.5%
	16歳と17歳	34.7%



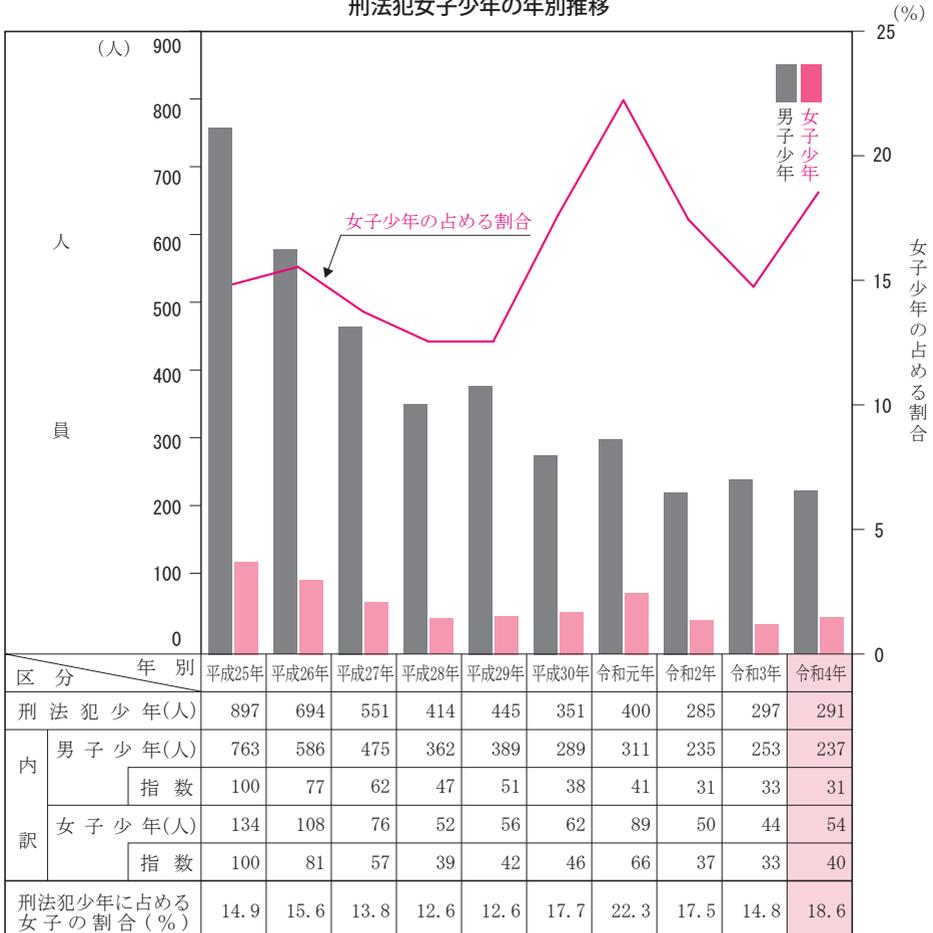
占有率	14歳と15歳	20.9%
	16歳と17歳	24.1%

8 女子少年の非行

(1) 年別推移

- 刑法犯少年291人のうち、女子少年は54人（18.6%）で、昨年より10人増加した。
- 平成年間以降で女子少年の割合が最も高かったのは平成9年（2,226人のうち625人、28.1%）で、令和4年よりも9.5ポイント高い。

刑法犯女子少年の年別推移



(注) 指数欄は、平成25年を100とした指数を示す。

(2) 罪種・手口別

- 刑法犯女子少年を罪種・手口別で見ると、万引きが26人と最も多く、次いで暴行、自転車盗の順であった。
- 女子少年の初発型非行(万引き、自転車盗、オートバイ盗、占有離脱物横領)は30人で、その構成比は55.6%を占め、男子少年の36.3%と比べ、19.3ポイント高くなった。

(3) 学職別

- 学職別に見た女子少年の構成比は、小学生が29.6%、次いで高校生が27.8%、中学生の18.5%の順であった。

女子少年の罪種別・学職別状況

(人)

罪種・手口別	学職別	未就学	学 生 ・ 生 徒				有職少年	無職少年	合 計	前年対比(増減)	
			小学生	中学生	高校生	その他				人 員	比率(%)
凶 悪 犯	殺 人							0	0	0.0	
	強 盗							0	0	0.0	
	放 火							0	0	0.0	
	強 制 性 交 等							0	0	0.0	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
粗 暴 犯	凶器準備集合							0	0	0.0	
	暴 行		2		5			7	3	75.0	
	傷 害			1			1	1	3	-	
	恐 喝								0	0.0	
	脅 迫								0	0.0	
計	0	2	1	5	0	1	1	10	6	150.0	
窃 盗 犯	万 引 き		10	7	6		1	2	26	▲ 6	▲ 18.8
	自 転 車 盗			2	1		1		4	3	300.0
	オ ー ト バ イ 盗								0	0	0.0
	そ の 他		2		2		1	1	6	2	50.0
	計	0	12	9	9	0	3	3	36	▲ 1	▲ 2.7
知 能 犯	詐 欺						2	1	3	2	200.0
	そ の 他								0	0	0.0
	計	0	0	0	0	0	2	1	3	2	200.0
風 俗 犯	強制わいせつ								0	0	0.0
	そ の 他								1	1	-
	計	0	0	0	0	1	0	0	1	1	-
そ の 他	占有離脱物横領								0	▲ 2	▲ 100.0
	そ の 他		2		1		1		4	4	-
	計	0	2	0	1	0	1	0	4	2	100.0
合 計	計	0	16	10	15	1	7	5	54	10	22.7
	構成比(%)	0.0	29.6	18.5	27.8	1.9	13.0	9.3	100.0		
前年対比	人 員	0	3	▲ 3	2	▲ 2	5	5	10		
	比率(%)	0.0	23.1	▲ 23.1	15.4	▲ 66.7	250.0	-	22.7		

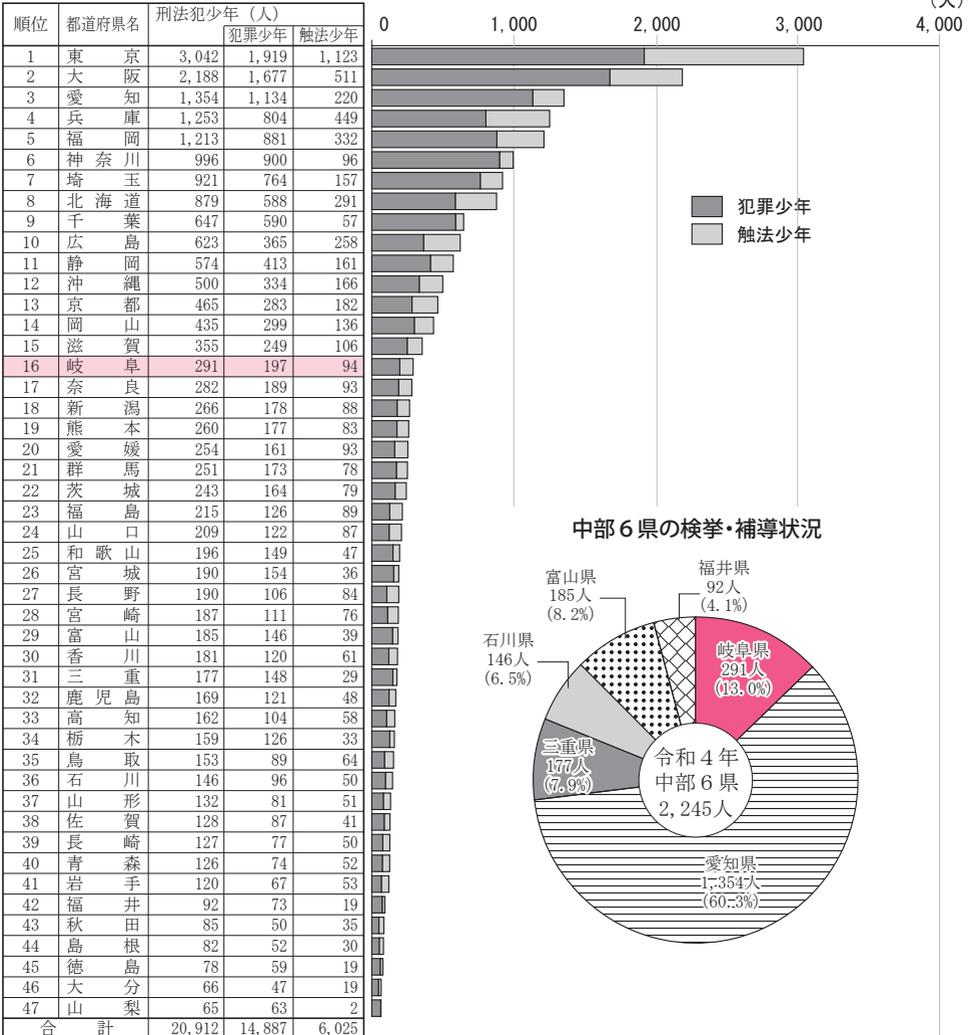
(注) ▲印は、減少を示す。

9 全国に占める岐阜県の位置

(1) 刑法犯少年の検挙・補導人員

- 岐阜県の刑法犯少年の検挙・補導人員は291人で、都道府県別で見ると、前年と同じく16位であった。また、中部管区内の6県では、前年と同様、愛知県に続き2位となった。

都道府県別の検挙・補導人員



(2) 全刑法犯検挙・補導人員に占める少年の割合

- 岐阜県の成人を含めた全刑法犯の検挙・補導人員に占める少年の割合は10.3%で、前年に比べ0.7ポイント増加した。
- 割合を都道府県別に見ると、前年の28位から29位に下がった。

都道府県別全刑法犯検挙・補導人員に占める少年の割合

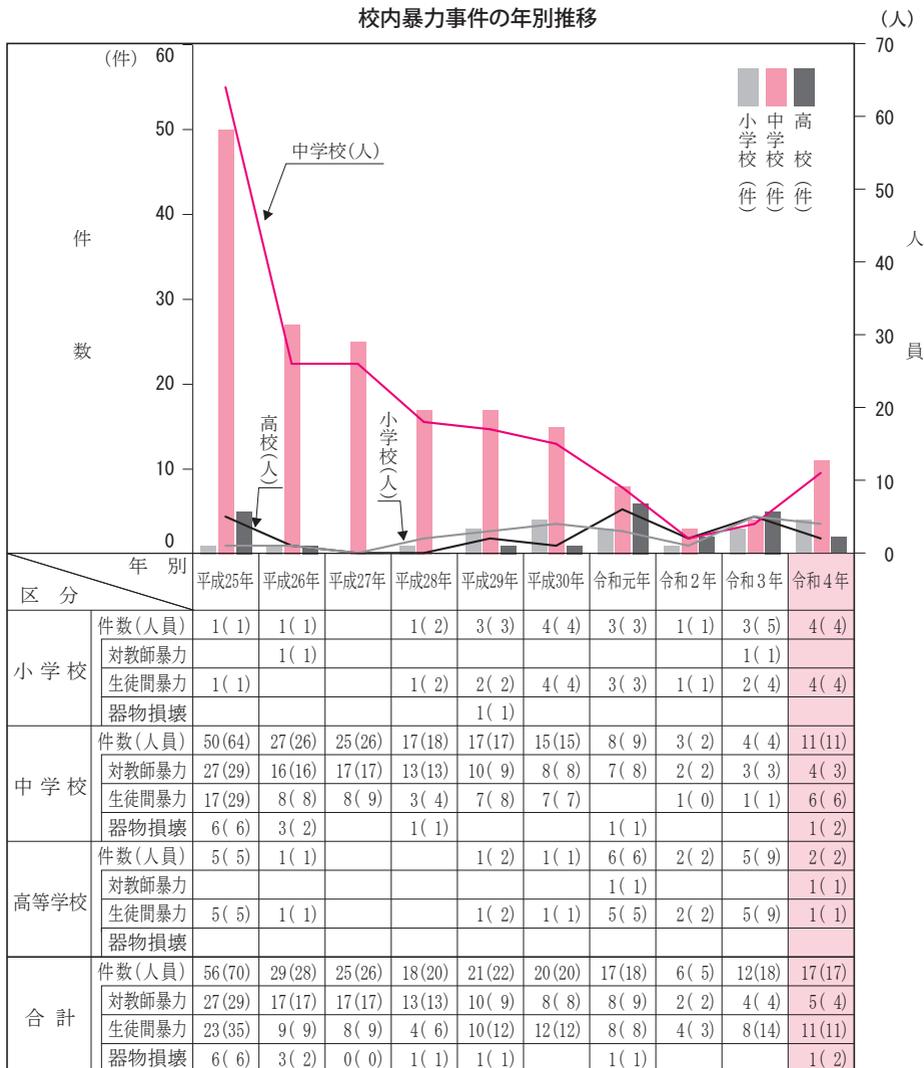
(人)

順位	都道府県名	全 刑 法 犯 検 挙 ・ 補 導 人 員			少年の占める割合(%)
			うち成人	うち少年	
1	沖 縄	2,893	2,393	500	17.3
2	高 知	1,004	842	162	16.1
3	滋 賀	2,252	1,897	355	15.8
4	岡 山	2,836	2,401	435	15.3
5	大 阪	14,380	12,192	2,188	15.2
6	鳥 取	1,012	859	153	15.1
7	広 島	4,216	3,593	623	14.8
8	宮 崎	1,300	1,113	187	14.4
9	東 京	22,034	18,992	3,042	13.8
10	愛 媛	1,850	1,596	254	13.7
11	福 岡	8,891	7,678	1,213	13.6
12	奈 良	2,084	1,802	282	13.5
13	和 歌 山	1,487	1,291	196	13.2
14	山 口	1,594	1,385	209	13.1
15	京 都	3,618	3,153	465	12.9
16	香 川	1,496	1,315	181	12.1
17	島 根	678	596	82	12.1
18	徳 島	655	577	78	11.9
19	岩 手	1,008	888	120	11.9
20	兵 庫	10,608	9,355	1,253	11.8
21	愛 知	11,616	10,262	1,354	11.7
22	熊 本	2,233	1,973	260	11.6
23	佐 賀	1,128	1,000	128	11.3
24	福 島	1,922	1,707	215	11.2
25	北 海 道	7,879	7,000	879	11.2
26	静 岡	5,179	4,605	574	11.1
27	石 川	1,332	1,186	146	11.0
28	富 山	1,720	1,535	185	10.8
29	岐 阜	2,824	2,533	291	10.3
30	長 野	1,846	1,656	190	10.3
31	鹿 児 島	1,662	1,493	169	10.2
32	新 潟	2,714	2,448	266	9.8
33	神 奈 川	10,230	9,234	996	9.7
34	三 重	1,825	1,648	177	9.7
35	青 森	1,305	1,179	126	9.7
36	千 葉	6,757	6,110	647	9.6
37	秋 田	896	811	85	9.5
38	埼 玉	9,730	8,809	921	9.5
39	山 形	1,444	1,312	132	9.1
40	群 馬	2,754	2,503	251	9.1
41	福 井	1,070	978	92	8.6
42	長 崎	1,565	1,438	127	8.1
43	栃 木	2,042	1,883	159	7.8
44	山 梨	841	776	65	7.7
45	茨 城	3,286	3,043	243	7.4
46	宮 城	2,716	2,526	190	7.0
47	大 計	1,022	956	66	6.5
合 計		175,434	154,522	20,912	全国平均 11.4

10 校内暴力事件

- 校内暴力事件による検挙・補導は17件17人で、前年に比べ件数は5件増加し、人員は1人減少した。
- 態様別では、対教師暴力が5件4人、生徒間暴力が11件11人であった。
- 学職別では、中学生が11件11人と最も多く、次いで小学生の4件4人、高校生の2件2人であった。

校内暴力事件の年別推移



(注) () 内の数値は、人員数を示す。

11 いじめに起因する事件

- いじめに起因する事件での検挙・補導はなく、前年と比べ件数で3件、人員で3人減少した。

いじめに起因する事件の年別推移

